

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援 unico春日		公表日		2025年 4月 25日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		トイレ前に段差があり、躓いて転倒する児童が見受けられます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		運営MTGを毎月実施し認識を揃える機会を設けています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			
	13	児童発達支援計画を作成するには、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		モニタリング時に他職員へ子どもの様子について聞き取りを行い、計画書にも反映しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎月WS会議を実施し、WS内容の共有を行っています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎朝朝礼を実施しWSの内容や共有事項を確認しています。朝が送迎等で時間が限られるため、外出WS時は外出計画書を別途作成し、事前に共有しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		夕方にリフレクションを行い、一日の振り返りを行っています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて幼稚園や保育園へ訪問し連携しています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○	現在は行っていないですが、希望があれば小学校との情報共有や相互理解は可能です。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○		

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		今後検討します。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		親子イベントを年2回実施し、保護者同士の情報共有の場を設けています。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		年2回親子イベントを実施しています。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		連絡帳に記載したり、時間を見つけて電話しその日中に対応するように努めています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		がくぶりにて活動写真を配信しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		年2回実施している	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			

50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		○	現在は該当児童がいないが、今後必要に応じて対応してきます。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 unico春日			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 12日		～	2025年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38名	(回答者数)	19名
○従業者評価実施期間	2025年 2月 12日		～	2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さま自身の育つ力を使ってお困りごとを解消していけるような療育実践	・定期的な研修の実施、振り返りを毎日実施することにより、その日のお子様の情報共有を行っています。 ・お子さま一人ひとりのニーズに応じて、主体的に選びたいような活動の提供を行っています。	・お子さまの困り感は何かを常に考えながら支援し、育ちの促しが常にできるよう、毎日の振り返りや研修等で支援力強化に努めます。
2	多様な体験や学びにつながるワークショップ活動の実践	・非日常を体験できるような『特別』な活動を通して主体的な学びを提供しています。社会経験につながるよう外出活動も積極的に取り入れています。 ・活動への興味や意欲を引き出すために、コーチングをベースにした関わりを実践しています。	・「子どもたち主体」で実践できるような提示方法や環境整備の更なる工夫に努めます。 ・unicoでしかできないような体験や経験を提供できるよう、内容の充実を目指していきます。
3	お子さま一人ひとりが安心して通うことのできる居場所づくり	・またunicoに行きたいと思うことができるよう、傾聴をベースに一人ひとりの「ちがひ」に応じて安心してできる活動や過ごす場所を選択できるような支援を行っております。	・関わりだけでなく、環境整備を行うことで安心して通うことができるよう努めます。 ・毎日のリフレクションや研修を通して、支援内容を充実させていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門性を感じていただけるような保護者様との連携	コーチングをベースにしたコミュニケーションの実践や機会提供を日々行っておりますが、その効果やお子さま一人ひとりの成長をより感じていただけるよう、日頃からの細やかなコミュニケーションが必要だと考えております	・保護者様に安心していただけるよう、より一層細やかな情報共有や日頃のコミュニケーションに努めてまいります ・日々の出来事に加え、どのような支援を行ったのか、どのような成長が見られているのかを具体的にお伝えできるよう、日々の振り返りで職員間の連携強化を図ってまいります
2	療育的な効果を感じていただけるような関係機関との連携	必要に応じて関係機関と連携を図っておりますが、日頃の支援内容やお子さまの様子の説明に留まることが多いため、unicoの療育の特徴や期待される効果、お子さまの具体的な成長についてを共有する等、よりスムーズな連携が行えるような工夫が必要だと考えております。	・保育園や幼稚園、相談支援事業所等の関係機関へunicoの療育や支援の特徴、期待される効果やお子さまの成長等についても適宜共有していくことで連携強化に努めていきます。

3	それぞれの活動に応じた環境設定の工夫	・ 活動内容やその時の状況に応じてお子さまが過ごす場所を選択できるよう、多様なスペースを設けていますが、お子さまのニーズに沿った環境を提供できるような工夫が必要だと考えています。	・ お子さまが自分がしたい活動を楽しむことが出来る環境設定のために、場所を仕切って、空間の中にその子だけの新たな空間を作り出すなどの工夫に努めていきます。 ・ 必要に応じて、事業所外の活動場所も取り入れるなど、より活動が充実する環境設定に努めていきます。
---	--------------------	---	---